

産地戦略

実施期間 令和9～13年度

実施主体 JAこうか露地野菜部会
都道府県 滋賀県
対象地域 甲賀市、湖南市
対象品目 白ネギ、タマネギ、キャベツ



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

・田畑輪換および温暖化の影響により、水田の地力が低下傾向にあり、水田野菜（キャベツ、タマネギ、白ネギ）の収量および品質が不安定になっている。また、肥料コストの増加により収益性の悪化が懸念されている。地力向上に向け、たい肥利用も推進されているが、散布方法や流通面、臭気対策などで課題が生じている。

・そこで、緑肥作物の導入による土壌改良および化学肥料削減とともに、緑肥すき込み後にバイオスティミュラント資材を利用することにより、土壌改良効果の一層の向上を目指す。

現在の栽培体系

	4		備考
主な作業名			
技術名			

▼ グリーンな栽培体系

	4		備考
主な作業名			
技術名			

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R8	目標R13	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	16.1	▶ 25	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	2	▶ 3	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	2	▶ 3	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	2	▶ 3	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学肥料による施肥体系	▶ 緑肥利用による減化学肥料施肥体系	土づくりによる安定生産 化学肥料の使用量削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学肥料の使用量削減	12	▶ 8	タマネギの追肥量 4.2kgN/10a×3回→2.8kgN/10a×3回
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する
（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

研修会での周知、現地研修会での実施状況の見学、SNS等での広報等

関係者の役割

関係者名	JAこうか露地野菜部会	JAこうか	茲賀県甲賀農業普及指導センター	
役割	グリーンな栽培体系による栽培の実践	緑肥体系導入に向けた技術指導、資材検討	緑肥体系に向けた技術指導、PR	

その他